

景況調査結果

令和4年度下半期「景況調査」の調査結果がまとまりましたのでご報告致します。

集計方法：DI値による集計

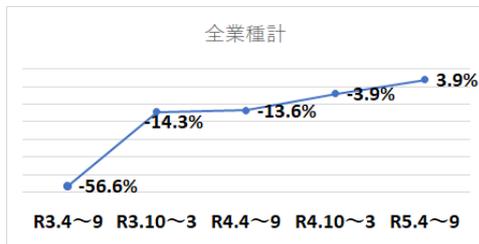
Diffusion Index(ディフュージョン インデックス)の略 調査対象企業に、例えば業況について「良い」「普通」「悪い」の中から1つを選んでもらい、「良い」と答えた企業割合から「悪い」と答えた企業割合を引いて求める。代表的な景気の判断指数として知られ、日銀の企業短期経済観測調査(短観)などで使われている。

令和4年10月～令和5年 3月 実績
令和5年 4月～令和5年 9月 見通し

調査時点	令和5年4月	
調査対象	沼田商工会議所会員事業所	
有効回答	製造業	13件
	卸・小売・飲食店	20件
	サービス業	7件
	建設業	6件
	その他(電気・ガス・運輸通信 金融・保険・不動産等)	6件
		52件

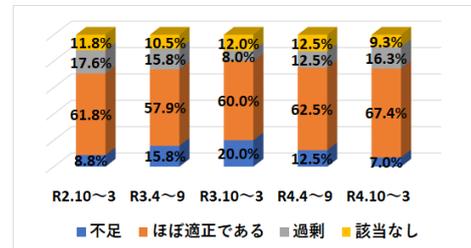
1. 業況判断

コロナ禍を経て全体的に改善がみられるが、サービス業は令和3年10月から厳しい状態が続いている。



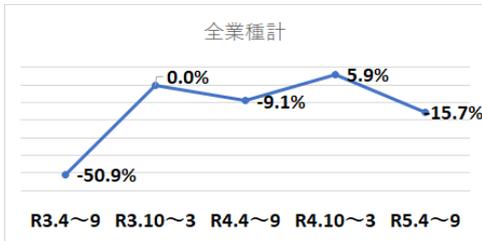
5. 在庫状況

不足が減少傾向にあり、適正が6割強を占める結果となった。



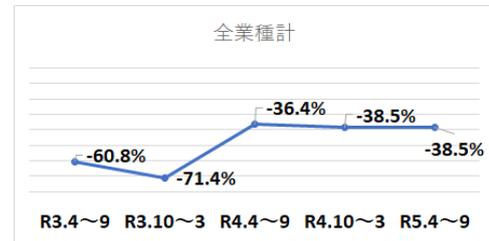
2. 売上状況

卸小売飲食業・建設業を除き、来期の予想は悪化すると回答した事業者が多い。



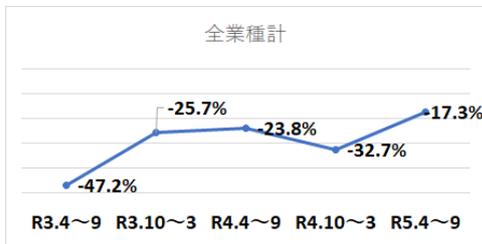
6. 設備投資

製造業は今期設備投資を行い、来期も行う傾向にある。



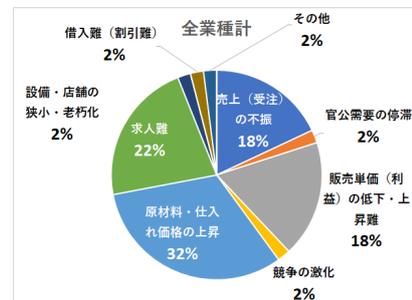
3. 採算状況

サービス業以外では2年前のコロナ最盛期と比較して改善傾向にあるが、来期のサービス業については顕著な改善が見込まれる。



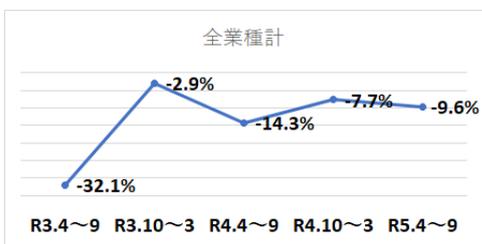
7. 経営上の問題点

多くの業種で原材料・仕入れ価格の上昇が上位に入るも、建設業とその他業種では求人難が5割以上を占めている。



4. 資金繰り

サービス業、建設業では容易になると見込まれるが、そのほかの業種では厳しさが予想される。



8. 賞与

今期(令和4年10月～令和5年3月)の賞与支給状況は以下の通り。

